



技能功労士



板硝子施工士 39年 株式会社 立石弟硝子店

たていし まさひろ

立石 勝さん (58歳 本町)

伝統的な硝子技術の原点を今に伝える

「確実な施工をしなければ便利な物が危険なものになるため、安全面を大事にしています」と、話す立石さんは、建築時から現場に立会い、安全硝子を提案している。また、「今はアルミサッシ窓が増えましたが、原点は木製建具の窓です。知識や技術を駆使して伝統的な商品を扱うことに誇りを感じます」と、少なくなった木製建具の技術を今に伝えている。

一般住居の硝子をはじめショーケースやショーウィンドウなどの内装品、鏡などの装飾硝子等を扱う。特殊な切断や加工、取り付けの高い技術を持ち、経験と知識がなければ難しいといわれる木製建具の硝子を扱う技能も持つ。1級ガラス施工技能士。福岡県ガラス施工技能検定委員としても、技能士を育てるための勉強会を開くなどして活躍。

技能功労士



貴金属装身具製作技能士 49年 津川貴金属工房

つかわ まさあき

津川 正明さん (64歳 瀬下町)

豪華かつ繊細な美しさに 安全性と実用性を備えた宝飾品を製作

大量製作ではなくオーダーに応じて一つ一つを丁寧に製作。「美しさだけではなく強度や安全性、実用性を考えます。作れば終わりではなく、使う相手のことまで考えて作り、販売します」と、話す。「同じように作っても2つとして同じ製品がない。それが手作業の良さですよ」と、津川さんの手のひらの中には、これから形を成すであろう石が輝いていた。

通常は分業とされる貴金属宝飾品の材料の仕入れから製品のデザイン、製造・加工（铸造、石留、彫刻）、販売まで全工程を一貫して行っている。

技能功労士



左官職 44年 富野左官

とみの しげる

富野 茂さん (59歳 京町)

現代風に活かしていく塗り壁の伝統技術

「品物に傷をつけないよう安全面に心掛け、いつも我が家を塗っている気持ちで仕事をしています。クロスが多い現代ですが、珪藻土など昔ながらの材料は湿気を取り空気浄化作用があるんですよ」と、伝統的漆喰の良さを語る。若手仲間を隣に、「昔ながらの塗り壁手法など、技術の伝承をしていきたい」と、笑顔で見つめていた。

木造建築における伝統的漆喰仕上げを色付けなど現代風にアレンジ。コテバターンを工夫して独特の風合いを出す。コンクリート建築物の特殊技術にも秀でている。1級左官技能士。若手後継者の指導にも力を入れる。久留米市左官業協同組合理事を務める。

技能功労士



植木職 50年 本田緑園

ほんだ ゆきと

本田 征人さん (72歳 三潁町)

日本庭園に合った魅力ある黒松に育て上げる

「枝を曲げてからは春と秋の年に二回、細かな手入れをしなければならないので大変です。しかし、小さな時から手を入れて、だんだんと庭木として整ってくる松を見るのがこの仕事の魅力ですね」と、まだ育成中の黒松を優しく眺める。「抱負は魅力ある枝を作っていくことです。そして、庭主から喜んでもらう仕事をしていきたいと思います」と、話す。

黒松を苗から育成し、2mの高さになるまで10年、それから枝を曲げて形を整え手入れをしながら計15年かけて育て上げる。その工程を全て自分で行っている。門かぶりの松（門の側に植える松）、芯木となって枝の美しさを見せる松と、それぞれの庭園に合った枝を作る技術に優れている。